

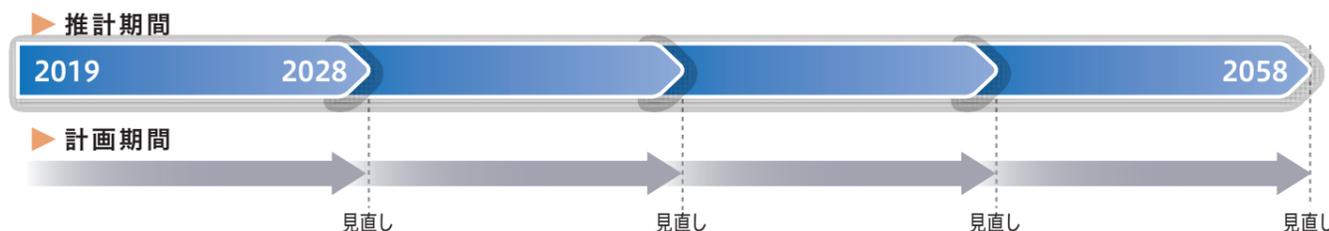
一宮市保育所等施設 総合管理計画

[2019 - 2028年度]



保育所等施設総合管理計画とは

保育園等の乳幼児施設について、おおむね40年後の就学前人口や保育需要等の推計を視野に評価・分析を行い、最適なコストと資産の利活用を図る「ファシリティマネジメント」の推進に向け、乳幼児施設の再配置等の基本的な方向性を策定するものです。
計画期間は、平成31(2019)年度から平成40(2028)年度までの10年間とし、その後10年ごとに見直していきます。



市内保育園等の現状

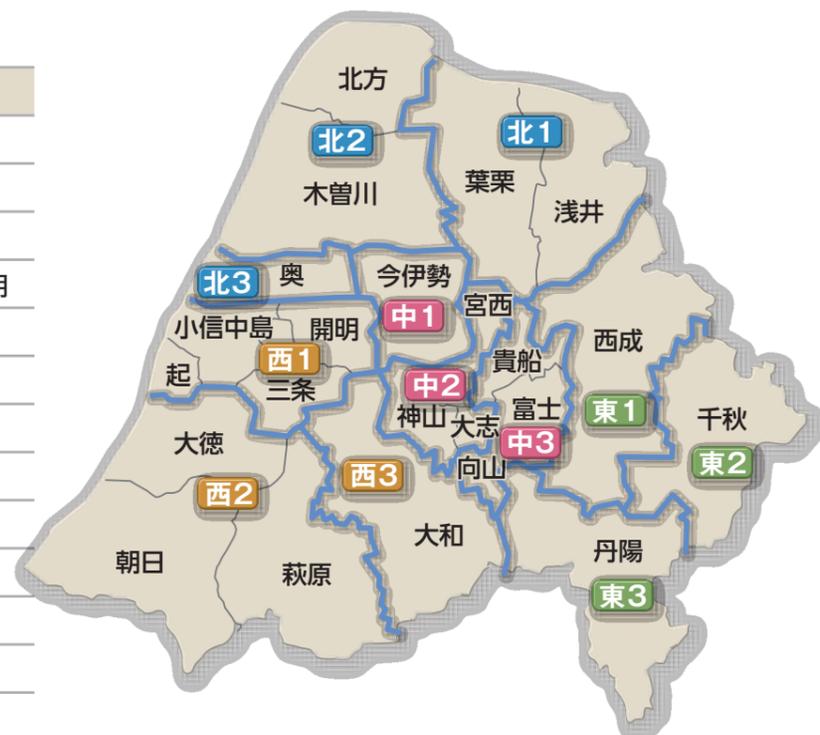
一宮市内には、就学前児童を対象とした施設は、公立保育園53、私立保育園16、私立幼稚園24、認定こども園1、地域型保育事業所10の計104施設があります。

■対象施設一覧 (2018年4月1日現在)

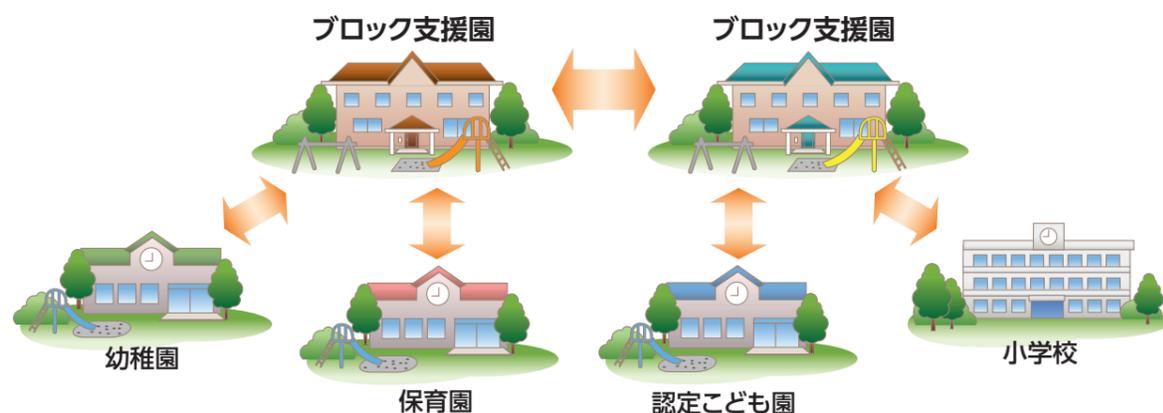
分類	施設数	入所人数
公立保育園	53	6,359
私立保育園	16	1,841
私立幼稚園	24	4,247
認定こども園	1	93
地域型保育事業所	10	125
合計	104	12,665

ブロック割り図

ブロック	構成する連区
北1	葉栗、浅井町
北2	北方町、木曾川町
北3	奥町
西1	起、小信中島、三条、開明
西2	萩原町、大徳、朝日
西3	大和町
東1	西成
東2	千秋町
東3	丹陽町
中1	今伊勢町
中2	宮西、神山、大志
中3	貴船、向山、富士



ブロック支援のイメージ



【ブロック支援園の役割(例)】

- ブロック内の保育園、幼稚園、認定こども園など教育・保育施設が、研修や交流等を通じて学び合う機会を設け、お互いに連携してスキルアップを図ることで地域の保育の質を高め、市全体の保育の質の向上を目指します。
- これから子育てを始める方や子育て中の方へ、子育てに関する情報を提供し、それぞれの家庭にとって必要なサービスや支援等を円滑に利用できるよう支援します。



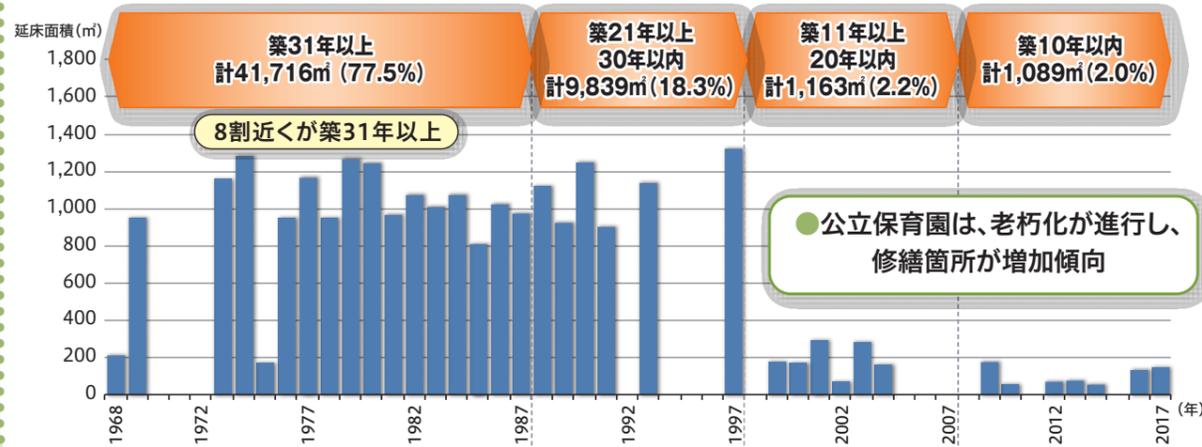
一宮市保育所等施設総合管理計画
(2019~2028年度)
[平成31年3月]

発行：一宮市
編集：こども部 保育課
〒491-8501 一宮市本町2丁目5番6号
TEL.0586(28)9024 FAX.0586(73)9123

公立保育園の課題

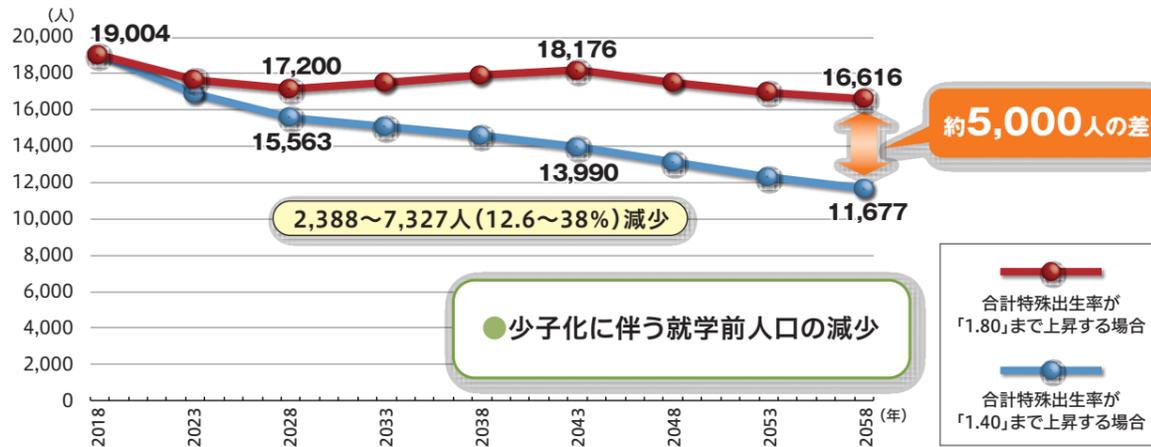
公立施設の老朽化

■建設年度ごとの棟別延床面積の推移



子ども人口の減少

■2058年までの就学前児童数(0~5歳児)の見通し



財政面の課題

- 大規模改修や建替えに必要な費用が集中し、安全な施設維持がままならなくなる危険性



課題への対応

I

当面の10年間は、新たな乳幼児施設(認定こども園など)で乳児定員を確保

II

ブロックごとにブロック支援園を定め、公立園として残り認定こども園化

III

園舎の老朽化対応に合わせて、ブロック支援園以外の公立園を民間へ移管

計画の方向性

基本的な考え方

01

均質な保育サービスを提供するための最適配置

市内を12の地域に分け、ブロックごとの子育て支援の中心として、認定こども園に移行する公立保育園を定め、ブロック内の保育園、幼稚園、認定こども園、小学校との連携のための中心機能を担うとともに、地域子育て支援センターを併設して、地域ぐるみでの子育て支援を推進します。

- 12ブロックごとに、ブロック支援園として0~5歳児の定員を有する公立認定こども園を1~3園程度配置し、地域の中で質の高い教育と保育を一体的に提供できる取組を進めます。



基本的な考え方

02

公立園と私立園の役割分担の明確化

【公立園の役割】

- 民間では対応が難しいニーズである特別な支援を要する子どもへの対応のほか、就学前児童数が少なく近隣に代替となる私立園が存在しない場合には、公立園を残しつつ、本市が目指す保育の見本となる保育のあり方を示していきます。

【私立園の役割】

- 民間が持つ柔軟性や効率性を活かして、早朝保育、休日保育、夜間保育などの延長保育や送迎、イベントの開催、独自の教育プログラム(英語や体操、心の教育)など、教育・保育サービスの充実やスピーディな対応が期待されます。



基本的な考え方

03

民間活力の最大限の活用

市内の幼稚園及び保育園を運営する民間事業者においても、アンケートから公立保育園の民間移管の可能性が確認できました。ただし、公立保育園を民営化することで、公共としての関与が全くなくなるわけではなく、認可保育園として本市が引き続き指導・監督する立場であることに変わりはありません。

- 取組みにより生み出される財源は、子どもの福祉の充実に活用することもできます。

